

広告

# 「多発性骨髄腫」について考える

## チーム医療や合併症対策で、よりよい治療を目指す。

高齢社会の進展に伴い、日本でも増加傾向にある多発性骨髄腫。50代以降の中高年に多く見られ、病気が進行することによって貧血や骨の痛み、腎機能の低下などを引き起こします。具体的な症状や病気の進行速度は人によって異なるため、自分に合った治療法を選択することが大切。血液学や腫瘍学を専門とし、これまで多くの患者さんと向き合ってきた徳島大学大学院の安倍先生が、多発性骨髄腫の特徴と、今もなお進化を続ける治療の可能性について語ります。

### 貧血や骨の痛みは多発性骨髄腫のサイン

多発性骨髄腫は、血液のがんの一種です。欧米人、特に黒人の方に多い病気でしたが、最近では日本人にも多く見られるようになりました。発症するのは50代以上の方がほとんどで、年齢が高くなるにつれて、その率は高くなっていきます。女性よりも男性の方がやや発症しやすい傾向にあるようです。ちなみに、病気が子どもたちに遺伝することはありません。

病気の原因となるのは、骨の中の骨髄にある形質細胞のがん化です。もともと形質細胞は免疫グロブリンという重要なタンパクを作る役割がありますが、がん化した形質細胞は体に悪い影響を与えるMタンパク(異常免疫グロブリン)を過剰に作るようになります。これが、体にさまざまな異常をもたらす原因となるのです。

骨髄腫細胞が増えると、骨髄の中の環境にも変化が起こります。その一つが、貧血を中心とした造血障害です。体がだるい、疲れやすい、息切れしてしまう、頭が痛いなど、貧血の症状がひどい場合は病気を疑う必要があります。

また、骨髄腫細胞が増えると破骨細胞が活性化され、骨を溶かし、骨を壊してしまいます。逆に骨を作る細胞は抑制されてしまうため、体重の重みや、ちょっとした動作で骨折してしまうことも珍しくありません。腰痛や骨の痛みがひどい場合も、この病気を疑うサインとなります。

さらに、骨髄腫細胞がMタンパクを多量に産生するようになる

### 多発性骨髄腫の症状と患者さんの状態

症状	患者さんの状態
貧血を中心とした造血障害	体がだるい、疲れやすい、脱力感、息切れ、頭が痛い
骨病変	腰が痛い、骨が痛い、骨折しやすい
血液・尿中の高タンパク	血液が粘って流れが悪くなる、腎臓の機能が悪くなる、視力が低下する、耳鳴りがする
高カルシウム血症	脱水症状、吐き気、食欲不振、便秘、体がだるい、疲れやすい、脱力感、精神の錯乱
免疫抵抗力の低下	感染症にかかりやすい、病気やけがが治りにくい

と、血液が粘って流れが悪くなり、腎臓の機能が障害を及ぼすだけでなく、視力低下や耳鳴りなどの原因にもなるのです。ほかにも、

### 高齢者も安心して治療できる環境に

貧血や腰痛の症状などから多発性骨髄腫が疑われた場合は、まず血液検査を行います。もし、総タンパクやMタンパクの量が異常に

も、高カルシウム血症や免疫抵抗力の低下など、さまざまな合併症を引き起こすことも多発性骨髄腫の特徴と言えます。

増えていけば骨髄穿刺を行い、骨髄の腫瘍細胞が増えていないかを調べて最終的な診断を下します。

多発性骨髄腫の治療法は、一人ひとり異なります。発現する症状や進行などに個人差があるためです。たとえば、骨髄腫細胞数が少なく何の症状もない場合は治療をせず、定期的な血液検査で経過を観察するのが一般的です。治療をしながらも長い期間にわたって病気が進行しないタイプを「無症候性骨髄腫」と呼びます。一方、臓器障害を伴っている場合は「症候性骨髄腫」と呼び、治療を開始します。合併症の管理対策が進



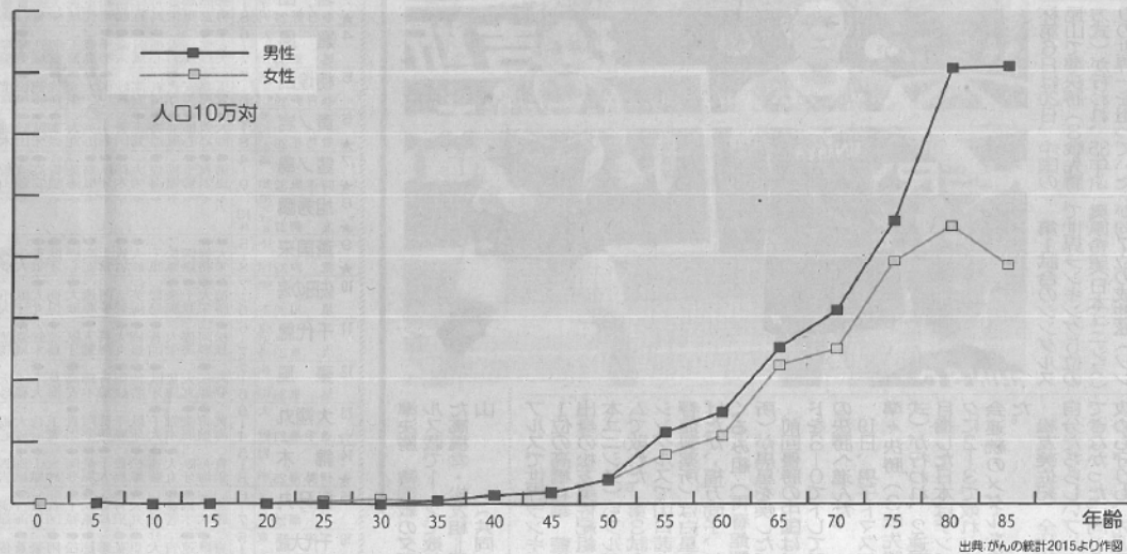
徳島大学大学院医歯薬学研究部 血液・内分泌代謝内科学分野 教授

安倍 正博 先生

血液検査で経過を観察するのが一般的です。治療をしながらも長い期間にわたって病気が進行しないタイプを「無症候性骨髄腫」と呼びます。一方、臓器障害を伴っている場合は「症候性骨髄腫」と呼び、治療を開始します。合併症の管理対策が進

## 多発性骨髄腫の年齢別罹患率

人口10万人あたりの罹患率



歩したことで、治療成績も大きく向上しています。貧血や骨病変、血中カルシウム高値などが認められる場合は、化学療法や放射線療法によって、がん細胞を減らすための治療を行います。従来のお薬は、いわゆる抗がん剤で副作用もきつかったため高齢者に使いにくく、感染症を起こしやすくなるなどのデメリットがありました。2000年以降複数の新しいお薬が開発されたことと、合併症の管理についても情報共有が進んだことで、治療成績が良くなってきています。

### 上手に病氣と付き合い豊かな人生を

現時点で、多発性骨髄腫は完治しない病氣とされています。しかし、新しい治療効果を持った薬が次々と開発されており、薬の組み合わせによっても治療効果が大きく高まることが証明されつつあります。患者さんには希望を持ちながら治療に取り組んでいただきたいと考えています。その際、大切になるのが「元気に日常生活を送れること」を目標に

する」ということです。そうすれば我々も治療計画が立てやすくなり、前向きな気持ちで病氣と向かい合えると思います。普段から転倒防止や重症な感染を起こさないための体調管理を行いながら、ご家族と力を合わせて治療に取り組んでいただければと思います。

我々の立場としても、徳島のチーム医療をさらに向上させ、あらゆる角度から患者さんやご家族を支えられる環境づくりを行うことが大切だと考えています。急に骨が痛くなった場合には整形外科の医師の力が必要になりますし、精神的なサポートには臨床心理士の存在が大きな力になります。また、来院される患者さんやご家族に寄りそう看護師や、身体機能の回復を行うリハビリ担当医、食事をサポートする栄養管理士など、各分野の専門家が力を合わせて包括的な医療を行うことが重要です。

まずは患者さんが自分自身の症状と向き合い、それぞれにあった治療を選択することです。患者さんとご家族が笑顔になれるよう、私たち医師も全力でサポートさせていただきます。